

2018
4月号

まことの 保育

■巻頭言

死んだら仏様になるんだよ

■新連載

子どもとともに学び合うまことの保育実践

■教区だより

東京教区保育連盟

■教材申込書



浄土真宗本願寺派 保育連盟

<http://hoiku.hongwanji.or.jp>

hoiku@hongwanji.or.jp



保育園はお浄土



ご入園おめでとうございます。ここはお寺の保育園です。阿弥陀さまという仏さまのいらつしやるところをお浄土といいます。さて、お浄土とはどんなところでしょうか？

『泣いた赤鬼』という物語を紹介しましょう。

ある山に、やさしい赤鬼がすんでいました。赤鬼は「村人たちと仲良くしたいなあ」とおもい、家をきれいにして、家の前に「みなさん、ぼくの家に来てください。おかしもあるよ。赤鬼」とかいた札をかけました。しかし、村人は、だれもきませんでした。しょうどそこに、青鬼がやってきて、赤鬼



せき 徳水
釋 園長（安芸教区）
慈光保育園

の話を聞いてくれました。青鬼は「そうか。ならば、ぼくが村であばれるよ。そこへ赤鬼くんがやってきて、ぼくをこらしめてくれ。そうしたら、村人は、赤鬼くんのやさしさをしって仲良くしてくれるよ」。

赤鬼は、青鬼をとめました。青鬼は村へいって、大あばれをはじめました。赤鬼は、「やめろ！」といって青鬼をつかまえると、青鬼は「いたい、いたい。なんて赤鬼はつよいんだ。にげる！」と、大げさにさげんで、山へにげていきました。

作戦は大成功。やさしい赤鬼の家には、村人たちがやってくるようになりました。

園児向け法話

ところがそれ以来、赤鬼の家には、青鬼がこなくなりしました。心配になった赤鬼は、青鬼の家にいってみました。すると、手紙がありました。「赤鬼くん。村人たちと仲良くなれてよかったね。ぼくが赤鬼くんの家にくると、きみもわるい鬼だとおもわれるよ。だからぼくは旅にでるね。いつまでもわすれないよ。青鬼」

赤鬼は、「ありがとう青鬼くん」といってなみだをながして泣きました。

このお話は、阿弥陀さまがお浄土をつくられ、私たちがそれを信じるのになています。

○やさしい赤鬼：阿弥陀さま

○赤鬼の家：阿弥陀さまのお浄土

○赤鬼の家の前の札：お経や阿弥陀さまのうた

○初めは赤鬼を信じない村人：私たち

○赤鬼と村人を仲良くさせてくれた青鬼：保育園の先生

というふうに、おきかえてみてください。すると、こんなお話になります。

昔、やさしい阿弥陀さまがいらつしやいました。阿弥陀さまは「みんなが、仲良くして

ほしいな」と願って、きれいなお浄土をつくってくださいました。お浄土を言葉にしたのがお経や仏さまのうたで、形にしたのがお仏壇です。しかし、私たちには、なかなか、お浄土のすばらしさがわかりません。

それでも、阿弥陀さまは、いつも私たちと一緒に。お仏壇の前でするおつとめや、うたや、先生がされるお話となつて、お浄土のすばらしさをおしえてくださっています。

そのおかげで、私たちは、お浄土のことがわかるようになります。そして、「ありがとう、阿弥陀さま。なもあみだぶつ」といえるようになるのです。

今日から、阿弥陀さまのいらつしやる、この保育園をお浄土だとおもつて、みんな、仲良くあそんでくださいね。

法話のポイント

①当園では毎朝『らいはいのうた』をおつとめしています。これは『らいはいのうた』の「やすけきくにかのほとけ あまたのこらをひきいます」のお話です。

②新入園児さん、小さな園児さんには難しいかも知れませんが、数か月後に、再度このお話をする、「赤鬼さんは、阿弥陀さまでしよう」「保育園はお浄土だよ」と笑顔で答えてれるようになります。